

地域を元気にする 魅力ある緑地公園づくり

茨城県日立市 赤羽緑地を守る会





水戸駅からJR常磐線で北へ向かう。車窓の左右から山と海が近づくと、日立市内で初めての停車駅、大甕駅おつかに到着する。駅前には廃線跡を活用したBRT（バス高速輸送システム）が整備されるなど、産業都市の資産を活かして、誰もが安心して住み続けられるまちづくりが進む。大甕駅から東海方面へ約2km、常磐線と高台の住宅街に囲まれた盆地にある「赤羽緑地自然観察ふれあい公園」を訪れる。

朝9時、「赤羽緑地を守る会」（代表・廣瀬泰和さん）のメンバーが集まりミーティングがはじまる。守る会では毎週土曜を定例活動日に、年間を通じて赤羽緑地の整備活動に取り組んでいる。カワセミが生息しているといった会員からの報告のあと、会員は広い公園全体に分かれて作業に取り掛かる。

守る会は今年、発足20周年の記念事業として、ハス池の造成に取り組んでいる。女性会員発案のこの事業は、湿地帯に広がる葦原の刈り払い・ハス池に流れる水路の造成・遊歩道の土台を竹で土留めした「バンブーロード」など、すべて手作業で造成する。胴長を着て泥をすくう作業はどこか楽しそうだ。

駐車場からは「バンブーロード」につながる「ネイチャールアワーロード」が整備されているが、これも女性を中心とした会員の手づくりによるもの。

会員の照沼さんの案内で赤羽緑地を歩いてみる。

赤羽緑地は、広さ7.3ヘクタール（東京ドーム約1.5倍）の土地の半分を雑木林や竹林・湿地が占め、中央には周囲の丘陵からの湧水を貯めた大小の池がある。野鳥の生息環境を維持するのにも、葦を刈りすぎないこともポイントだという。丘陵地に広がる竹林は適宜伐採し、竹杭やチップに加工して遊歩道などに使い、公園の中で循環させている。高台に上がると日立港区周辺が見えてくる。工業都市日立を体感できる隠れたスポットだ。歩を進めると公園の中には棚田や井戸があり、戦中戦後の生活の痕跡がわずかに残る。公園北側の斜面には古墳時代の史

跡、横穴墓がある。縄文期にはこの辺りが入り江だったそうだ。この地形を利用して戦中には防空壕も掘られており両者を見分けるのはなかなか難しい。守る会が造成したミズバショウやヒガンバナの群生地もあり、開花時期に訪れてみるのも楽しそうだ。

ふと賑やかな鳥の空を見上げると、シロサギとアオサギが争いながら乱舞している。

自然の息吹を感じながら赤羽緑地を一周すると心地よい疲れを感じる。守る会の会員は作業後に再び集まり屋外でティータイム。メンバー手作りの地元ソウルフード「たらし焼き」（お好み焼きに近いもの）をいただく。今日の作業の情報交換をしていると、いつの間にか前夜の雪も消えて正午を過ぎていた。代表の廣瀬さんは「ここで体を動かして作業をしていると時間の流れを忘れちゃうよね」と周囲を和ませる。

赤羽緑地はもともと軟弱地盤の荒地で長い間放置され、人も近寄らない場所だった。平成13年に日立市から地元緑地公園化への協力の呼びかけがあり、住民有志で「赤羽緑地をつくる会」を立ち上げた。

「どんな公園にしようか」と栃木県の公園を視察したりして、日立市と協働のワークショップで構想をまとめた。「人間と自然との共存」をコンセプトに①水生植物・水生動物を大切にする②野鳥の保護③横穴墓の史跡を大切にする、といった方針を持って2年かけて整備に取り組んだ結果、平成15年4月に公園がオープンした。

公園のオープン後に「赤羽緑地を守る会」に名称変更。日立市と公園里親協定を結び、現在までの20年間活動を続けている。「手探りではじまった活動が軌道に乗ったのは、発足当初のワークショップが功を奏したのかもしれない」と廣瀬さんは振り返る。会員それぞれが興味を持った、水生・野鳥・歴史などのグループを作り活動について話し合った。





こうして積み重ねた守る会の気風だろうか、ミーティングでは会員一人一人が活発に発言する。

守る会は、毎週土曜を定例活動日として、公園の草刈り、雑木林や竹林の整備、野鳥池の葦刈り取り、池の外來魚駆除や水質浄化、ミズバショウやヒガンバナなどの群生地づくり、カブトムシの繁殖など多岐に渡る。また、野鳥観察会、ザリガニ釣り、昆虫採集など、子どもたちや保護者及び一般参加者を募ったイベントも恒例行事として開催している。

「自分がそれぞれ気づいたことを、責任をもって、実行する」のが守る会の活動スタイル。広大な緑地を、トップダウンの指示ではなく、一人一人の気付きで楽しみながら作業に取り組んでいる。

会員の一人は、テレビで紹介された赤羽緑地のミズバショウを見に来たところ、守る会の会員にレクチャーを受けたのが入会のきっかけだという。同じシニア世代が公園でいつも活動している様子を見て、自分もやってみようという気持ちになったそうだ。20年の活動を通して市民の意識の変化も実感している。利用者が自主的にごみを拾ったり、住民が花の苗木を持ってきて「公園に植える」とみんなに見てもらえるから嬉しい。自分だけ見るのはもったいない」と声をかけられることもある。

代表の廣瀬さんは「子どもたちからお年寄りに至る幅広い世代の人たちに、憩いと安らぎを与える場所として利用してもらえる魅力ある緑地公園づくりを通して、地域の活性化に取り組みんで行きたい」と話す。

四季を通して訪れるたびに景観を楽しむことができる赤羽緑地公園。桜の花が咲き誇る季節が間もなくやってくる。

【連絡先】

赤羽緑地を守る会(代表・廣瀬泰和さん)
ホームページ：<http://akaryoku.g.dgdg.jp>